



※特記なきイラストは、GV-2300 のイラストです。

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後も保管してください。
- 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。乱丁、落丁はお取り換えします。

スタンダード発電機

GV-2000 [50Hz]

GV-2300 [60Hz]

取扱説明書（保証書付）

目次

はじめに

各部の名称	2
各部の取扱い	3
パーツのご注文は	7
安全上のご注意	8

準備

ご使用になる前に	11
----------------	----

使用方法

発電機（エンジン）の始動	14
電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止 ..	16

保守・点検

定期点検を行いましょう	19
常時使用しない場合には	20
運搬する場合には	21
「故障かな？」と思ったら（故障と処置） ..	22
点検・整備	24
一時保管・長期保管	30

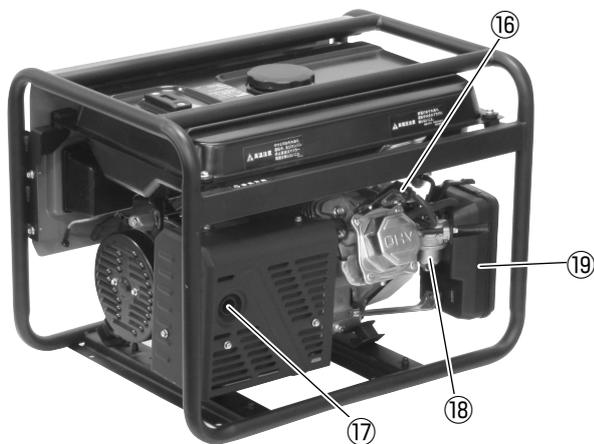
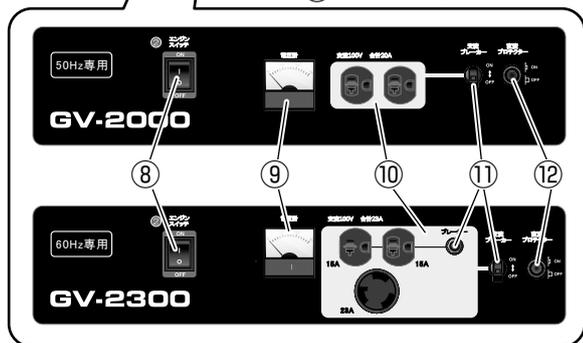
その他

主要諸元	32
交流・直流電源の使用できる範囲	33
よくある質問	34
保証書	36

各部の名称

同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。

特に数量の記載の無いものは各 1 点です。



- ① 燃料タンク (3 ページ)
- ② 燃料タンクキャップ／燃料タンクストレーナー (3 ページ)
- ③ 燃料残量計 (3 ページ)
- ④ オイル警告装置 (3 ページ)
- ⑤ オイルプラグ／オイル注入口 (3 ページ)
- ⑥ 直流端子 (4 ページ)
- ⑦ アース端子 (4 ページ)
- ⑧ エンジンスイッチ (4 ページ)
- ⑨ 電圧計 (4 ページ)
- ⑩ 交流コンセント (100V) (4 ページ)
- ⑪ 交流ブレーカー (5 ページ)
- ⑫ 直流プロテクター (5 ページ)
- ⑬ チョークレバー (5 ページ)
- ⑭ 燃料コック (5 ページ)
- ⑮ リコイルスターターグリップ (6 ページ)
- ⑯ 点火プラグ／点火プラグキャップ (6 ページ)
- ⑰ マフラー／排気口 (6 ページ)
- ⑱ キャブレター (6 ページ)
- ⑲ エアクリーナー (6 ページ)
- ⑳ 工具一式 (6 ページ)



各部の取扱い

① 燃料タンク

燃料（レギュラーガソリン）を入れるタンクです。

② 燃料タンクキャップ／燃料タンクストレーナー

燃料（レギュラーガソリン）を入れるタンクのキャップです。キャップを開けると中に燃料タンクストレーナーがあります。



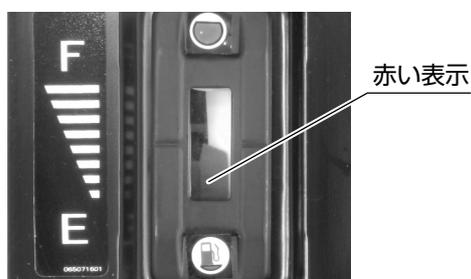
赤レベル(給油限界位置)

③ 燃料残量計

燃料の残量目安を表示します。満タンのときは赤い表示がFを指し、少なくなるにつれEに近づきます。

取り扱いのポイント

- ・表示はあくまで目安です。給油限界位置の確認は、必ず燃料タンクストレーナーの赤レベルにて行ってください。
- ・本機を水平にした状態で表示を確認してください。本機が傾いていると正しく表示されません。



④ オイル警告装置（外からは見えません）

エンジンオイルが不足したとき、エンジンを自動で停止させる装置です。この装置が作動している間はリコイルスターターグリップを引いてもエンジンはかかりません。エンジンオイル量を点検し、給油してください。（12 ページ「エンジンオイルの給油」参照）

⚠注意

！ 定期点検表のとおりにオイルを交換する

オイル汚れなどにより、オイル警告装置が誤作動する場合があります。エンジンの焼き付きや故障の原因となりますので、定期点検表のとおりオイル交換を行ってください。

取り扱いのポイント

- ・オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル警告装置が働きエンジンが停止することがあります。水平状態にして使用してください。

⑤ オイルプラグ／オイル注入口

エンジンオイルを入れるときに、オイルプラグ（オレンジ色）を外します。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

各部の取扱い

⑥ 直流端子 (DC 12V/8.3A・鉛バッテリー充電専用)

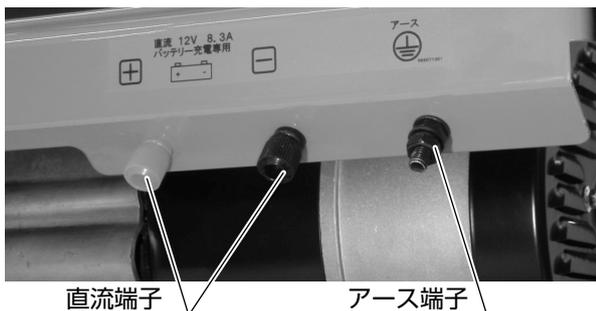
直流電気を取り出すところです。取り出し方は 18 ページ「電気を取り出し方・直流」を参照してください。

⑦ アース端子

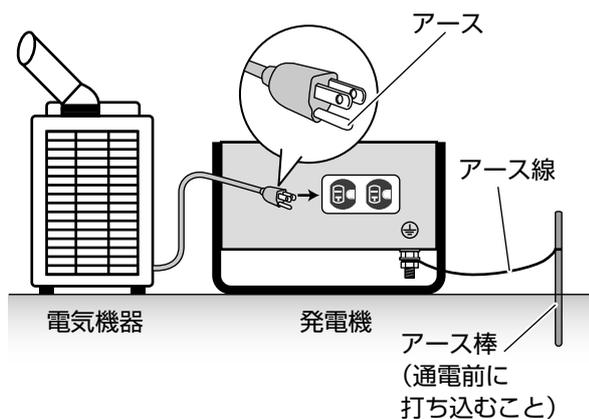
感電防止のアース線を取り付ける端子です。発電機のアース接続は必要ありません。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地 (アース) してください。

アース線、アース棒は付属していません。別途ご用意ください。

アース線直径の参考 0.12mm/アンペア
(例: 1.2mm/10 アンペア)



〈接続イメージ〉



⑧ エンジンスイッチ

本機を運転、停止するときに操作します。

- ・ ON (運転) : エンジン運転時の位置です。
- ・ OFF (停止) : エンジン停止および保管時の位置です。

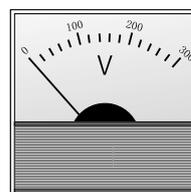


⚠️ 注意

❗ 本機を使用しないときは、エンジンスイッチを「OFF」(停止)にする

⑨ 電圧計

エンジン運転中に発生する電圧を針の動きで示します。



⑩ 交流コンセント (100V)

交流電気を取り出すところです。取り出し方は 16 ページ「電気を取り出し方」「交流電源 (AC)」を参照してください。

コンセントへプラグを差し込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。

■ GV-2000

合計 20A
・ 15A × 2



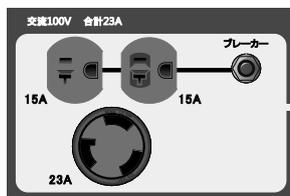
■ GV-2300

合計 23A
・ 15A × 2 (ブレーカー付き)
・ 23A × 1 (NEMA L6-30)

(市販品のプラグ (参考))
・ 株式会社 明工社 : MH2578
・ アメリカン電機株式会社 : 3322R-L6

差し込み : プラグを図の位置に差し込み、右に回してください。

抜き取り : プラグを左に回し、抜き取ってください。



各部の取扱い

⑪ 交流ブレーカー

- ON：交流電源が取り出せます。
- OFF：交流電源が取り出せません。

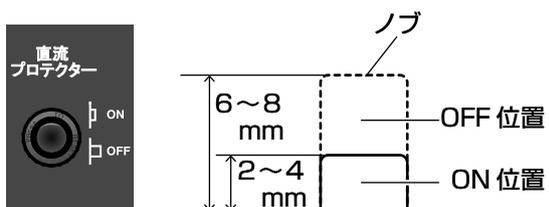


取り扱いのポイント

- ・電気機器を使用中に交流ブレーカーが OFF になる場合は、負荷が発電機の指定定格出力以内になるよう電気機器の接続を減らすなどしてください。(33 ページ「交流・直流電源の使用できる範囲」参照)
- ・再度使用する場合は、交流ブレーカーを ON にしてください。

⑫ 直流プロテクター

- ON：直流電源が取り出せます。(通常はこの位置になっています)
- OFF：直流電源が取り出せません。



取り扱いのポイント

- ・直流プロテクターが ON のとき、それ以上ノブを押さないでください。
- ・直流プロテクターが OFF になる場合は、取り出す電気の量を定格出力以内に減らしてください。充電中に定格以上の電流が流れると自動的に OFF になります。(33 ページ「交流・直流電源の使用できる範囲」参照)
- 再度使用する場合はノブを押し込んで ON にしてください。

⑬ チョークレバー

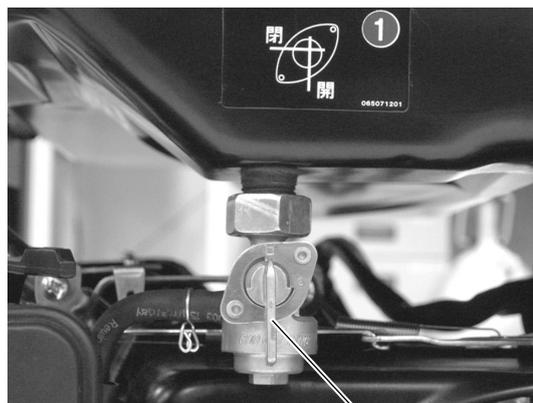
- 始動：エンジンを始動させるときのレバーの位置です。
- 運転：エンジンを運転するときのレバーの位置です。

チョークレバー



⑭ 燃料コック

- 燃料の流れを制御します。
- ON (開)：燃料は流れます。始動および運転時のコックの向きです。
- OFF (閉)：燃料は流れません。停止および保管時のコックの向きです。



燃料コック

⚠ 注意

- ! 本機を使用しないときは、燃料コックを「OFF」(閉)にする

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

各部の取扱い

⑮ リコイルスターターグリップ

エンジンを始動させるときに使用します。

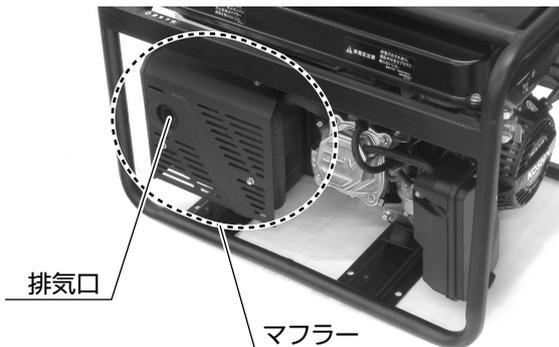


⑯ 点火プラグ／点火プラグキャップ

点火プラグキャップを外したところに、エンジン部品である点火プラグがあります。点火プラグの取り付け、取り外しするときは⑳点火プラグレンチを使用します。

⑰ マフラー／排気口

エンジンの排気が出るところです。



⚠注意



使用中、使用直後マフラー周辺はさわらない

高温になっているため、やけどの原因となります。

⑱ キャブレター

エンジンにあり、ガソリンを気化し空気と混合する装置です。

⑲ エアクリナー

⑱キャブレターにきれいな空気をとりこむための装置です。

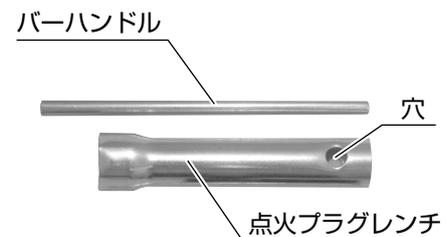


⑳ 工具一式

付属品がそろっているか確認してください。

・点火プラグレンチ（六角対辺：20.8mm）

⑯点火プラグを取り付け・取り外しするときに使用します。点火プラグレンチとバーハンドルを組み合わせて使用します。



・ドライバー（プラスマイナス兼用）



パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。

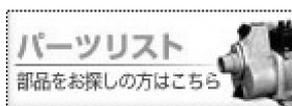
また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧いただけます。

ご注文時のお願い 部品番号、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

パーツ表・単価 1) <https://www.koshin-ltd.co.jp> へアクセス



2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック



3) エンジンのパーツは「エンジンパーツリスト」バナーをクリック



アフターパーツ

名称	部品番号
エアクリーナーエレメント	1001616
点火プラグ (TORCH : F6RTC)	1001019
点火プラグレンチ (六角対辺 : 20.8mm)	1001617
燃料タンクストレーナー	1001618
タンクキャップ	1001619

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

安全上のご注意

使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、ご使用になる方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。

- お守りいただく内容を区分して説明しています。

 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

- その他の表示：**取り扱いのポイント** …正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

危険

 燃料給油時など燃料取扱時には、火気厳禁 タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから給油してください。燃料への引火や火災の原因となります。	 傾斜地で使用しない 平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。
 燃料は、可燃性であり容易に発火するため運転中には燃料の補給はしないこと。タバコを吸いながら又は炎の近くでは燃料の補給はしないこと。燃料はこぼさないこと	 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない 建物およびその他の設備から 1m 以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。
 機関の排気ガスは、毒性であるため発電装置は換気されていない部屋では運転しないこと。また換気された部屋に据え付けた場合は、防火及び防爆についての別の要求事項にも従わなければならない	 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しない また、本機の上に物を乗せて使用しない
 車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど室内および換気の悪い場所では運転しない エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。	 燃料をこぼさない 燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

⚠ 危険



本機の周りにガソリン、エンジンオイル、または危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（わらくす、紙くすなど）を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。



コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まない
感電の原因となります。

⚠ 警告



車両（キャンピングカーなど）や船舶に積載したまま使用しない



子供は、発電装置から安全な距離だけ離れた位置より近づけないこと



本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。



疲れているときや病気のとき、酒気を帯びた状態や薬物・医薬品を摂取した状態で運転しない



エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。（詳しくは 11 ページ「ご使用になる前に」参照）



カバー類を外したまま使用しない

手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。



雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れている状態で本機や本機に接続された電気機器を使用したり、濡れた手で操作したりすると、感電の原因となります。



発電装置は、電力会社の供給電源など、他の電源に接続してはならない



使用時には、適用される法律や規則に従う

労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。



並列運転端子には専用コード以外は絶対に接続しない

感電の原因となります。



本機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器のプラグを外す

プラグを外さないと、いたずらなどで電気機器が動き、思わぬ事故が起きる原因となります。



本機を水洗いしない

電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。



長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

安全上のご注意

警告



点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを OFF の位置にし、点火プラグキャップを取り外す

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。



内燃機関の部品のなかには高温になりやけどを引き起こすものがあるため、発電装置に付けられた警告に注意すること



電気部品（線及びプラグ接続部も含む）は、欠陥品でないこと



感電に対する保護は、発電装置に整合するように設けられた専用回路遮断器によって決まる。回路遮断器は、交換の必要がある場合、定格及び性能特性が同じ回路遮断器と交換しなければならない

注意



熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。



本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

発電機の故障およびエンジン部品の早期摩耗の原因となります。



始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない

感電の原因となります。



本機の回転部に棒や針金を入れない

けがの原因となります。



エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。



燃料の種類と規定容量を守って使用する

守らないと、火災の原因となります。



運転中は移動させない

けがや故障の原因となります。



使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する

お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。



燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える

燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。



運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。



延長コードは、電気機器に合った十分な太さのものを使用する

(16 ページ参照)

ラベルのメンテナンス

- ・本機には、銘板や注意ラベルが貼付されています。
- ・銘板が見えにくくなった場合やはがれた場合には、お買い上げの販売店に注文し、貼り替えてください。

ご使用になる前に

本機には「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。下記をよくお読みいただき、必ず給油してからご使用ください。

燃料の給油

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。下記を必ず守って作業を行ってください。

⚠危険

-  給油中は、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
また、身体に帯電した静電気を除去してから給油を行う
放電しないと、静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火するおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると静電気を放電することができます。
-  エンジンが熱い時は給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。エンジンが冷えてから行ってください。
-  エンジンが熱い時や気温が高い時は燃料タンクキャップを開けない
液化したガソリンが勢いよく噴出するおそれがあります。エンジンが冷えてから行ってください。

⚠警告

-  給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行う
-  必ずレギュラーガソリンを給油する
アルコール含有燃料を給油すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
-  古い燃料は使用しない
携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。
-  燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入った場合は、直ちに医師の診断を受ける
また、燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える
-  燃料タンクキャップは確実に締め付ける

⚠注意

-  軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを給油したり、不適切な燃料添加剤は使用しない
エンジンなどに悪影響を与えます。
-  燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意する
また、こぼれたときは、直ちに布切れなどで完全に拭き取る
-  燃料は規定量以上（燃料タンクストレーナーの赤レベル以上）給油しない
入れすぎると、燃料タンクキャップからもれる原因となります。
-  燃料を一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用する
特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  作業中は本機を水平にする

ご使用になる前に

1) 以下を用意する。

- ・ 使用燃料：レギュラーガソリン
燃料タンク容量：12.6L

取り扱いのポイント

- ・ 2回目以降の使用時について、タンク内に残っているガソリンが30日を経過している場合は燃料が劣化している可能性があります。燃料は30日に1回、新しいものに交換してください。

2) 本機を水平にする。

3) 燃料タンクキャップを左に回し、取り外す。

4) 燃料を給油する。

- ・ 燃料タンクキャップを開けたところにある燃料タンクストレーナー（以下ストレーナー）に赤でレベル（給油限界位置）が表示してあります。レベルを超えないように給油してください。レベルを超えて給油すると、燃料がもれることがあります。
- ・ エンジン不調を防ぐため燃料はストレーナーを通して給油してください。



取り扱いのポイント

- ・ 燃料はゆっくりと給油してください。
- ・ こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- ・ 燃料は全部無くなる前に、できるだけ早めに給油してください。
- ・ エンジンが熱い時に給油しないでください。

5) 燃料タンクキャップを右に回し、しっかりと締め付ける。

エンジンオイルの給油

⚠注意



購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量給油する

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。オイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、オイル警告装置が働き、エンジンが始動しません。



本機を傾けて給油しない

規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因となります。入れにくい場合は、別途じょうごを用意するなどして、本機の水平を保ったまま給油してください。

万が一傾けて給油した場合は、給油後発電機を平坦・水平で硬い場所に置いた状態でエンジンが完全に冷えてることを確認します。オイルプラグを取り外し、エンジンオイルが溢れない事を確認ください。溢れた場合は、きれいに拭き取ってください。



エンジンオイルを規定量以上に給油しない

入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

1) 以下を用意する。

- ・ 推奨オイル：4サイクル用エンジンオイル SE級以上 SAE 10W-30
エンジンオイル規定量：0.5L
- ・ じょうご、オイルジョッキなど

ご使用になる前に

取り扱いのポイント

- ・お使いの地域の平均気温が下図の表記の範囲内であれば、他の粘度のオイルを用いることができます。

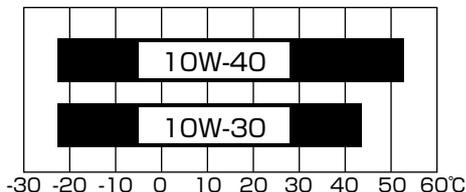


図1 周囲温度

- ・「問題のあるエンジンオイル」は使用しないでください。(34 ページ「エンジンに関する豆知識」参照)

2) 本機を水平にする。

3) オイルプラグを取り外す。



4) オイル給油口の口元まで給油する。



じょうご、オイルジョッキを使用すると正しく給油しやすくなります。



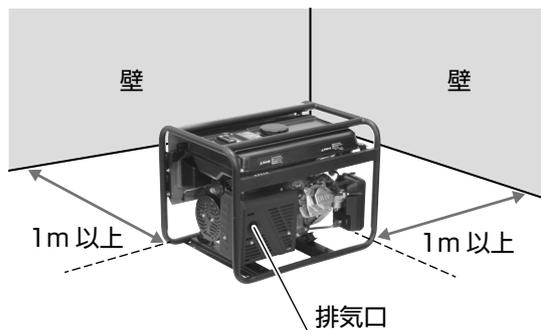
取り扱いのポイント

- ・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。
交換しないとエンジンが焼き付きなどの故障を起こすおそれがあります。2回目以降は19ページの定期点検表に基づいて交換してください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

5) オイルプラグを右に回し、しっかりと締め付ける。

本機周辺の点検

- ・燃えやすい物(特にガソリンやエンジンオイルなど)や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか(下図参照)。
- ・本機を段ボールなどで囲っていませんか。
- ・使用場所が小石、土、砂利などで凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・雨や水などが本機にかかっていませんか。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

発電機（エンジン）の始動

発電機（エンジン）を始動する

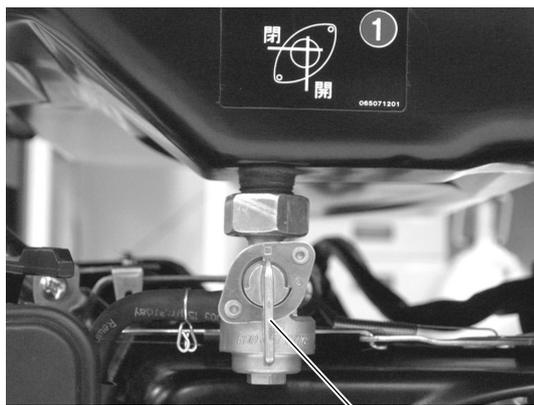
⚠危険

- ❌ 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しない
有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。

⚠注意

- ❌ エンジンを始動する前に電気機器を接続しない

- 1) 燃料の量を点検する。
- 2) 燃料コックを「開」にする (❶)。



燃料コック

- 3) エンジンスイッチを ON にする (❷)。



- 4) チョークレバーを「始動 (|) チョークを閉じる)」にする (❸)。

エンジンが温まっている場合や夏期は「運転 (|) チョークを開く)」にする (❹)。

チョークレバー



- 5) リコイルスターターグリップ（以下リコイル）を引いて重くなる場所を探し、重くなったところから勢いよく引く (❹)。



取り扱いのポイント

- ・リコイルは勢いよく引いてください。勢いが足りない（始動時のエンジン回転が遅い）と、エンジンが始動しないことがあります。
- ・リコイルを数回引いてもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを逆の位置にして再度リコイルを引いてください。

発電機（エンジン）の始動

6) エンジンが始動したらリコイルをゆっくり元の位置に戻す。

⚠注意

❗ リコイルは手を添えてゆっくりと元に戻す
始動装置や回りの部品の破損または使用者に傷害を与えるおそれがあります。

⊘ 運転中はリコイルを引かない
エンジンが破損する原因となります。

7) 始動後、エンジンの回転が安定したらチョークレバーを「運転（|↑| チョークを開く）」にし、暖気運転を行う（⑤）。

チョークレバー



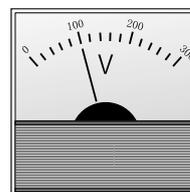
暖気運転は下記の時間を目安に行ってください。

気温	暖気運転時間
5℃以上	3分
5℃以下	5分

取り扱いのポイント

・長時間「始動（|↓| チョークを閉じる）状態」で本機を運転しないでください。エンジンの故障の原因となります。

8) 電圧計の針が 100V 付近を示しているか確認する。



取り扱いのポイント

・本機が移動、横倒、落下、破損などするような位置で使用しないでください。

特に横倒したまま運転すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止

電気機器を接続する前に、必ず「安全上のご注意」の項目をよくお読みください。

⚠ 警告



電力会社からの電気配線には絶対に接続しない

火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



本機は接続された電気機器の使用状況にあわせて電圧が変化するため、電圧変化に敏感な電気機器は使用しない



接続の可否が不明確な場合は、電気機器会社に相談する



コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用する



使用時には、適用される法律や規則に従う

労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。



欠陥のある（故障などしている / 線及びプラグ接続部も含む）電気機器を接続・使用しない

交流電源（AC）の場合

交流電流の使用できる範囲は 33 ページ「交流電源の使用できる範囲」の表をご覧ください。

電気の取り出し方

1) アース端子を接続する。

- 本機に接続する電気機器がアース付プラグの場合、本機も必ず接地（アース）してください。（4 ページ「アース端子」参照）

2) エンジンを始動する。

（14 ページ「発電機（エンジン）の始動」参照）

3) 電気機器のスイッチが切れていることを確認し、電気機器のプラグを確実にコンセントにさし込む。

消費電力の合計が上限を超えないようにしてください。

機種	消費電力の合計
GV-2000 [50Hz]	20A 以下
GV-2300 [60Hz]	23A 以下



※ 図は GV-2300 です。GV-2000 も同様に作業を行ってください

⚠ 注意



接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認する

電気機器のスイッチが入っていると、電気機器が急に作動し、思わぬけがや事故を引き起こす原因となります。



引出し線又は移動配電網を用いるとき、線の全長は断面積が 1.5mm^2 の場合は 60m を超えてはならず、断面積が 2.5mm^2 の場合は 100m を超えてはならない



リール（巻き取りタイプ）で使用する場合は、リールに巻かれているコードを全て引き出した状態で使用する

巻いた状態で電気機器を使用すると、コードが熱を持ち、危険です。



機械的応力が大きいため、ゴム及び可撓ケーブル（IEC 60245-4 による）又はその同等品のみを使用することが望ましい

電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止

- 4) 交流ブレーカーが ON になっていることを確認する。



- 5) 電気機器のスイッチを入れる。

過負荷運転や使用する電気機器が異常を起こした場合は、交流ブレーカーが OFF になり電気が取り出せなくなります。その場合は接続している電気機器を取り外し、交流ブレーカーを ON にして電圧計の針が 100V 付近を示していることを確認してください。

発電機（エンジン）の緊急停止

- 1) エンジンスイッチを OFF にする。



取り扱いのポイント

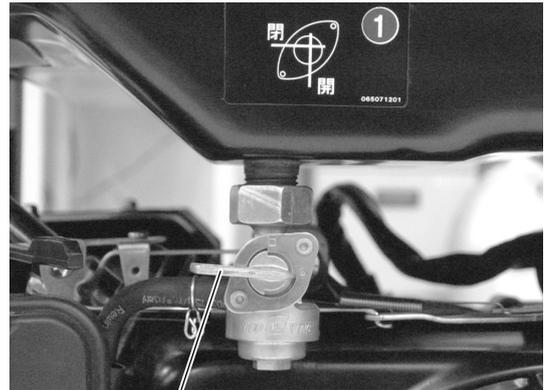
- お客様に危険がおよぶときのみ緊急停止を行ってください。ただし緊急停止後にそのまま保管するとエンジン故障（キャブレター詰まり）の原因となりますので、保管をする場合は通常停止を行ってください。

発電機（エンジン）の通常停止

- 1) 電気機器のスイッチを切る。
- 2) プラグをコンセントから抜く。
- 3) エンジンスイッチを OFF にする。



- 4) 燃料コックを「閉」の位置にする。



燃料コック

⚠ 危険



本機を保管するときや点検整備を行うときは、燃料漏れを防ぐために燃料コックを「閉」の位置にする

「開」のままだと燃料がこぼれ、引火する原因となります。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止

直流電源 (DC 12V/8.3A・鉛バッテリー充電専用) の場合

- ・ 直流電源は 25Ah、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリーを充電できるように作られています。これよりも容量の小さいバッテリーの充電に使用してください。
- ・ 直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出すときは、33 ページの表中「交流・直流併用」をご覧ください。

電気の取り出し方

- ・ 16 ページ「電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止」冒頭のご注意も併せてお読みください。
- ・ 鉛バッテリーからは引火性ガスが発生します。取り扱いを誤ると爆発や大ケガをするおそれがあるため、以下を必ず守ってください。

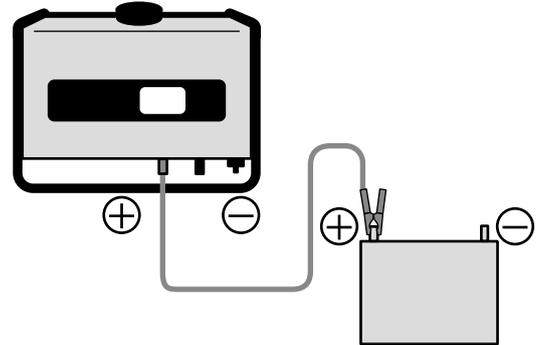
⚠ 危険

- ❗ **本取扱説明書に記載の手順を必ず守る**
手順を誤るとショートやスパークが起こり、引火・爆発のおそれがあります。
- ❗ **火気厳禁**
タバコの火や静電気を近づけないでください。引火・爆発のおそれがあります。
- 🚫 **水にぬらしたり、ぬれた手で操作しない**
- ❗ **作業は風通しの良いところで行う**
- ❗ **バッテリー液をこぼしたり、皮膚・目・服などに付着しないようにする**
バッテリー液は希硫酸です。万が一液が付着したらすぐに多量の水で洗い流し、目に入った場合は医師の診断を受けてください。

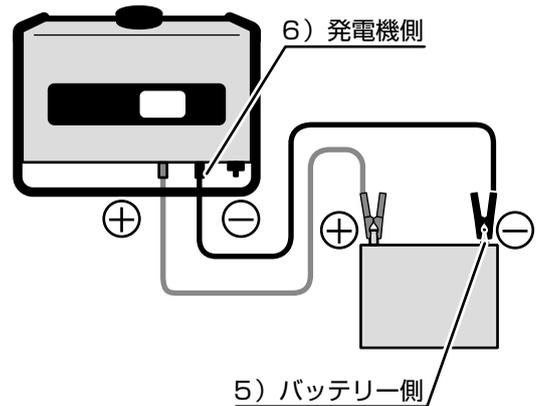
取り扱いのポイント

- ・ 充電時間はバッテリーの状態により異なります。詳細は充電するバッテリーの説明書をよくお読みください。
- 1) 充電ケーブルを別途用意する。
 - 2) 直流プロテクターが ON になっていることを確認する。
(5 ページ「直流プロテクター」参照)

- 3) バッテリーのプラス端子と発電機の直流端子・プラスをケーブルで接続する。



- 4) エンジンを始動する。
(14 ページ「発電機（エンジン）の始動」参照)
- 5) バッテリーのマイナス端子にケーブルを接続する。
- 6) 発電機の直流端子・マイナスにケーブルを接続する。



取り扱いのポイント

- ・ 直流端子から電気を取り出しすぎると、直流プロテクターが OFF になり電気が取り出せなくなります。(5 ページ「直流プロテクター」参照)

発電機（エンジン）の停止

- 1) エンジンスイッチを OFF にする。
- 2) バッテリーのマイナス端子からケーブルを外す。
- 3) バッテリーのプラス端子からケーブルを外す。
- 4) 発電機のプラス・マイナス端子からケーブルを外す。
- 5) 燃料コックを「閉」の位置にする。

定期点検を行いましょ

本機を安全に、かつ快適にご使用いただくために定期点検を行ってください。

点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- ・点検をするときは電源を切り、エンジンを停止してから行ってください。
- ・点検時期は表示の期間ごとまたは運転時間ごとのどちらか早いほうで実施してください。
- ・表示時間を経過後すみやかに実施してください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間運転後	3ヶ月ごと または 50時間運転ごと	6ヶ月ごと または 100時間運転ごと	24ヶ月ごと	
エンジンオイル	オイル量の点検	●					
	交換 (24 ページ)		●		●		
燃料	量、漏れ	●					
エアクリナー	点検	●					
	清掃 (27 ページ)		● ^{※3}				
	エレメント交換			● ^{※2}			
点火プラグ	点検と清掃				●		
	交換 (25 ページ)	250 時間運転ごと					
燃料タンク ストレーナー	清掃 (28 ページ)				●		
燃料コック ストレーナー	点検と清掃 (29 ページ)			●			
燃料配管部	亀裂、損傷の 確認	●					
	交換					● ^{※1}	
バルブクリアランス	点検と調整				● ^{※1}		
シリンダーヘッド、 ピストン	カーボンの除去	125 時間運転ごと					

※1 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店へ申しつけてください。

エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※2 エアクリナーの交換は、エレメントのみ交換を行ってください。

※3 ほこりの多い環境で使用した場合、1日1回または10時間運転ごとに行ってください。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用せず、緊急に使用することが予測される場合は、毎月 1 回試運転を行ってください。燃料やオイルは長期間放置すると自然劣化してエンジンが始動しにくくなり、また故障の原因にもなります。

取り扱いのポイント

- ・ガソリンは自然劣化しますので、30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- ・オイルは自然劣化しますので、定期点検表（19 ページ参照）に従い交換してください。

試運転のやり方

- 1) 11 ページ「ご使用になる前に」の内容を行う。
- 2) 燃料、エンジンオイル、エアクリーナーを点検する。
(11 ページ「ご使用になる前に」参照)
- 3) 本機を始動する。
(14 ページ「発電機（エンジン）の始動」参照)
- 4) 電気機器を 10 分以上運転する。
(16 ページ「電気の取り出し方 / 発電機（エンジン）の停止」参照)
- 5) エンジンの調子、オイルや燃料の漏れ、エンジンスイッチの作動を確認する。

警告



お客さま自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店へ作業を依頼する

運搬する場合には

本機を車両などで運搬する場合には、以下を必ず守ってください。

⚠ 危険

- ⊘ 本機および燃料入り携行缶を車室内やトランクに積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に放置しない
燃料が気化して引火しやすい状態になる原因となります。

⚠ 警告

- ⊘ 本機を車のトランクに積んだまま長時間悪路を走行しない
- ⊘ 車両に積載したまま使用しない

⚠ 注意

- ⊘ 本機の上に重い物を置かない

1) 以下を用意する。

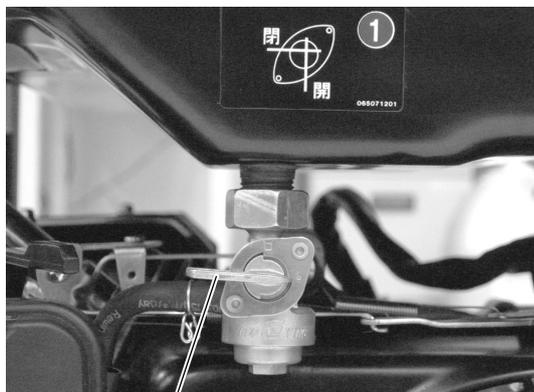
- ・ 手動式ガソリン用ポンプ
- ・ 消防法に適合した携行缶

⚠ 危険

- ⊘ 電動式ポンプは使用しない
引火の原因となります。

2) エンジンスイッチを「OFF」にする。

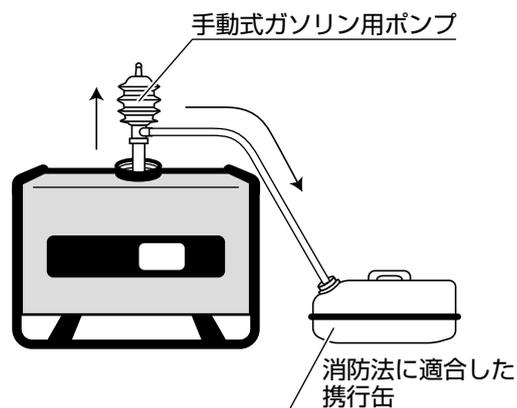
3) 燃料コックを「閉」の位置にする。



燃料コック

4) 燃料を燃料タンクから抜いて、携行缶に入れ替える。

燃料の抜き方：燃料タンクキャップと燃料タンクストレーナーを取り外し、ポンプを使用して燃料（レギュラーガソリン）を抜きます。



5) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定する。

取り扱いのポイント

- ・ 本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。
特に横倒ししたまま運搬すると、エンジンが始動しなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店に修理をご相談ください。

下記に多く考えられる故障と処置を記載しましたので、修理を依頼する前にご確認ください。

トラブルの症状	考えられる原因	対策	参照ページ数
リコイルスターターグリップが引けない、または重い	問題のあるエンジンオイルによる固着	正しいエンジンオイルに入れ替え、改善されない場合は販売店へ修理、点検をご依頼ください。	12
	エンジンの焼付き	お客様では修理せずに、販売店へ修理、点検をご依頼ください。	—
	エンジンオイルの入れ過ぎ		
	本機を転倒させたことによるオイル上がり		
	リコイルスターターの不具合		
	エンジン内のサビ付き		
	シリンダー内への異物混入		
エンジンが始動しない	燃料が入っていない	燃料を給油する。	11
	エンジンオイルが入っていない、量が少ない →オイル警告装置の作動	エンジンオイルを給油する。	12
	本機が傾いている →オイル警告装置の作動	水平にする。	3
	問題のある燃料※、エンジンオイルによるエンジン不調	正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は修理。	34
	エンジンの始動方法に不足などがある	正しい始動方法を再確認する。	14
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点火プラグの点検・交換・調整。	25
	エアクリーナーエレメントのつまり	エアクリーナーエレメントの清掃。	27
	燃料タンクまたはキャブレターに水が入っている	キャブレターのドレンボルトをゆるめて水を排出する。	30
	チョークレバーの位置調整	エンジンが冷えている場合や冬期は「始動」。エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」。	14
	本機を転倒させたことによるオイル上がり	お客様では修理せずに、販売店へ修理、点検をご依頼ください。	—
	キャブレターがつまっている		
上記を確認しても改善が見られない →エンジン内部部品の損傷			

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

トラブルの症状	考えられる原因	対策	参照ページ数
エンジンが数分動いた後止まる	問題のある燃料※、エンジンオイルによるエンジン不調	正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は修理。	11、12
	点火プラグまたはイグニッションコイルの劣化	点火プラグの点検・交換。	25
	キャブレターがつまっている	お客様では修理せずに、販売店へ修理、点検をご依頼ください。	—
	製品を傾けた状態で置いている	水平な所に設置する。	—
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う。	15
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	—
排気口から白煙が出る、またはオイル垂れが多い	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを正しい量にする	12
	本機を転倒させたことによるオイル上がり	お客様では修理せずに、販売店へ修理、点検をご依頼ください。	—
	SA 級など、指定以外のエンジンオイルを使用	指定のエンジンオイルを使用する。	12
「パン」という大きな音が排気口付近です（排気口付近で未燃ガスが燃焼している＝アフターファイヤー）	エンジンが始動するまでのリコイルスターターの操作回数が多い	正しいエンジンの始動方法を再確認する。 点火プラグの点検・交換。	14、25
	接続した電気機器が作動したままエンジンを停止した	エンジンを停止するときは電気機器を停止し、プラグをコンセントから抜いてエンジンを停止する。	17 (発電機(エンジン)の通常停止)
エンジンが作動するが電気が取り出せない	交流ブレーカーが勝手に OFF に切り替わる	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する。 GV-2300 [60Hz] では周波数 50Hz の電気機器は使用できません。60Hz の電気機器をお使いください。	5
	上記を確認しても改善が見られない →発電体の損傷	お客様では修理せずに、販売店へ修理、点検をご依頼ください。	—
電気機器の出力が足りない	GV-2000 [50Hz] に周波数 60Hz の電気機器を接続している	60Hz の電気機器は使用できません。50Hz の電気機器をお使いください。	—
	上記を確認しても改善が見られない →電気機器が本機に適していない	ご使用の電気機器の接続可否は電気機器会社にお問い合わせください。	—
電気機器に故障や不具合が発生する（発熱、異音など）	GV-2300[60Hz] に周波数 50Hz の電気機器を接続している	50Hz の電気機器は使用できません。60Hz の電気機器をお使いください。	—

※「問題のある燃料、エンジンオイル」について、詳しくは 34 ページ「エンジンに関する豆知識」をご覧ください。

点検・整備

お客さま自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店へ作業を依頼してください。

⚠ 危険

- ⊘ 作業中は、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
また、身体に帯電した静電気を除去してから給油を行う

放電しないと、静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火するおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると静電気を放電することができます。

⚠ 警告

- ⊘ 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しない

有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。

- ⚠ 点検は平坦・水平な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを「OFF」にし、点火プラグキャップを取り外して行う

(6 ページ「点火プラグ／点火プラグキャップ」参照)

⚠ 注意

- ⚠ 点検・整備はエンジンが冷えてから行う
エンジン停止直後は、エンジン本体や排気口などの温度や、エンジンオイルの温度が高くなっているため、やけどの原因となります。

エンジンオイルの交換

- ・ 12 ページ「エンジンオイルの給油」も併せてお読みください。
- ・ エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守ってください。
- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。

- 1) エンジンを始動し、2～3分暖気運転をする。
エンジンオイルを排出しやすくします。

- 2) エンジンスイッチを OFF にする。

⚠ 警告

- ⚠ エンジンオイルは、エンジンが冷えるのを待って交換する

長時間運転後のエンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっているため、やけどの原因となります。エンジンが冷えるまで待ってから行ってください。

- 3) 排出するエンジンオイルを受ける容器を用意する。

- 4) 本機の下にオイルを受ける容器を置き、オールドレンネジを緩めてエンジンオイルを抜く。
レンチは「10mm」を使用してください。



オールドレンネジ

⚠ 警告

- ⚠ ガソリン・オイルなどの油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）に従って適切に処理する

不明な場合はオイルをお買い上げになった販売店にご相談ください。

点検・整備

- 5) オイルプラグを外し、オイル給油口から新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油する。



⚠注意



エンジンオイルを規定量以上に給油しない

エンジンオイルを入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出る、スターターが引けないなど不調の原因となります。

- 6) オイルプラグがゆるまないように確実に取り付ける。

⚠注意



こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取る

点火プラグの点検・調整・交換

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると、完全な火花が飛ばなくなり本機不調の原因となります。点火プラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

指定点火プラグ：F6RTC (TORCH) または
BPR6ES (NGK)

⚠注意



やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行う

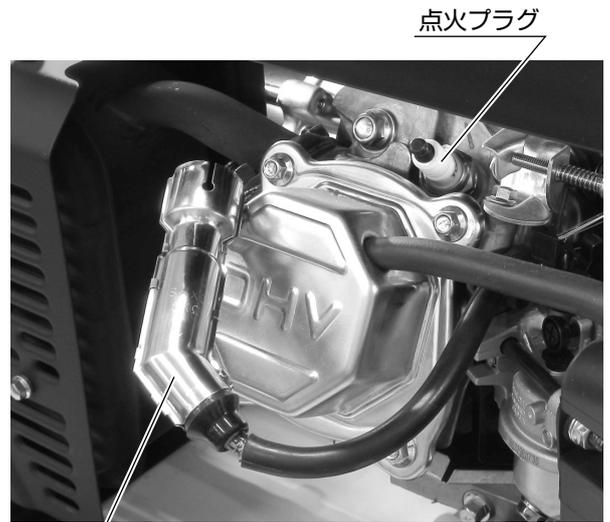
エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

取り扱いのポイント

・故障の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。

- 1) エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する。

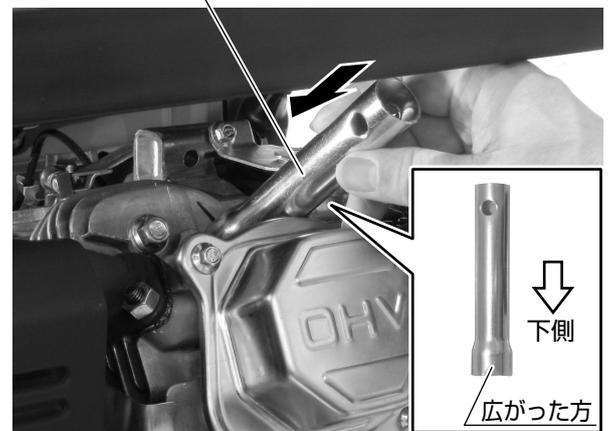
- 2) 点火プラグキャップを外す。



- 3) 点火プラグレンチの広がった方が下になるようにして、点火プラグにかぶせるようにして差し込む。

ナットの六角形部分にうまくはまるようにしてください。

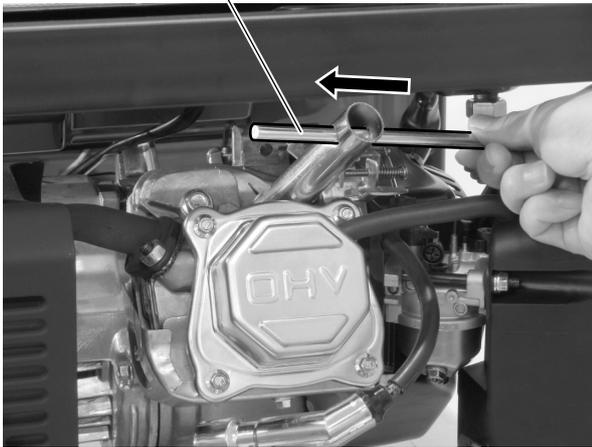
点火プラグレンチ



点検・整備

- 4) 点火プラグレンチ上部の穴にバーハンドルを通し、反時計回りに回して取り外す。

バーハンドル



⚠注意



点火プラグ脱着時は、碍子（がいし / 白い陶器部分）を損傷させないように注意する

碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発する原因となります。

取り扱いのポイント

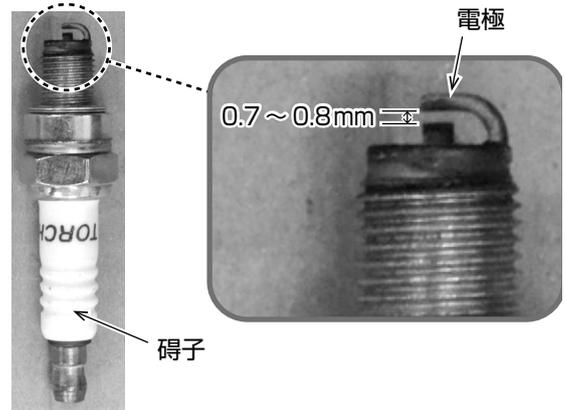
- ・点火プラグを外すとき、最初は強い力が必要です。ケガをしたり、本機を倒さないよう注意してください。

- 5) 点火プラグが濡れているときや汚れているときは、布切れなどで拭く。

- 6) 電極付近が黒くまたは白く焼けていたり、ガソリンで湿っていたりするときは、パーツクリーナーで清掃する。（通常はキツネ色に焼けます）
点火プラグについての詳細は、34 ページ「よくある質問」をご覧ください。

- 7) 電極のすき間（点火プラグギャップ）を確認し、下記寸法になっていない場合は調整する。

点火プラグギャップ：0.7～0.8mm



- 8) 点火プラグを取り付ける。

電極部分を下にして、手で元の場所に時計回りで慎重にねじ込んでください。



⚠注意

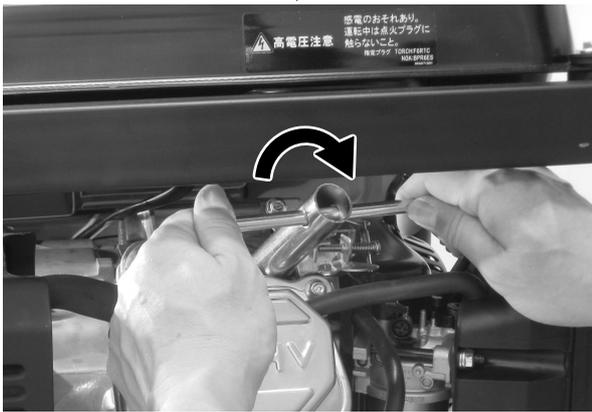


点火プラグは慎重にねじ込む

最初から点火プラグレンチを使用してねじ込まないでください。まっすぐねじ込むのがむずかしくなり、エンジン破損の原因となります。

点検・整備

- 9) 点火プラグレンチとバーハンドルを取り付け、しっかりと締め付ける。



取り扱いのポイント

- ・点検、調整、交換後は点火プラグキャップの根元を手で持ち、取付方向にまっすぐ確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。斜めに挿入されると点火プラグまたはエンジンが破損する場合があります。
- ・新品の点火プラグに取り替える場合、手で締め付けた後に点火プラグレンチで 1/4 から 1/2 回転を目安にしっかりと締め付けてください。

- 10) 点火プラグキャップを取り付ける。

取り扱いのポイント

- ・点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンが始動しない場合は、新しいプラグに交換してください。

エアクリナー（空気ろ過器）の清掃

エアクリナーエレメント（以下エレメント）が目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、定期的に清掃してください。ほこりの多い場所で使用した場合、1日1回または10時間運転ごとに清掃を行ってください。

警告

- ！ 清掃は換気の良い場所で行う

- 1) 清掃用に以下を用意する。

- ・きれいな灯油
- ・灯油を入れる容器
- ・未使用のエンジンオイル

警告

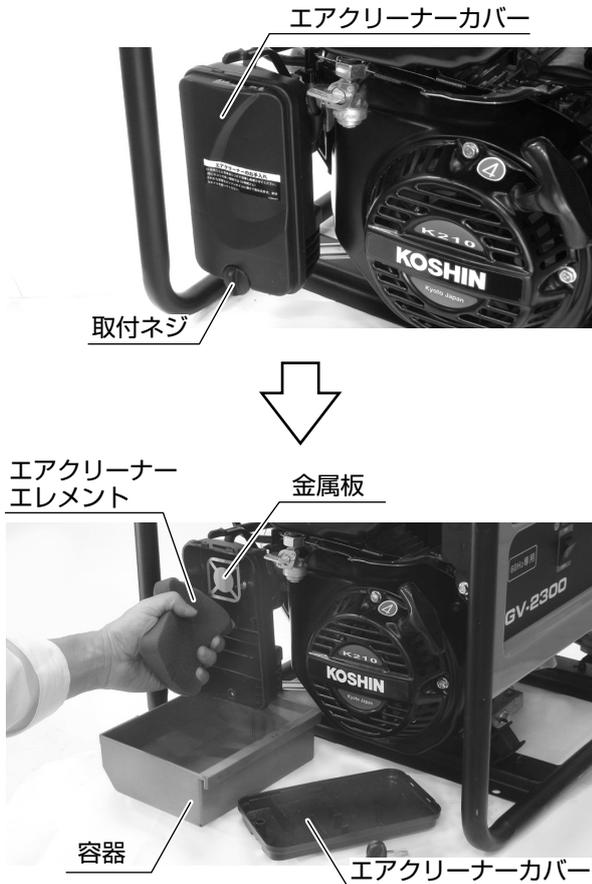
- ⊘ 清掃に使用する灯油は引火しやすいため、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
火災の原因となります。

- 2) エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する。
- 3) エアクリナーカバーの取付ネジをゆるめて、カバーを取り外す。

点検・整備

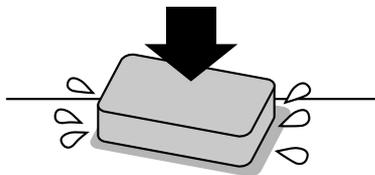
- 4) エlement (ろ過部) を取り外し、きれいな灯油で洗淨する。

このときもし金属板が外れた場合は、必ず元の位置に取り付けてください。



- 5) エlementの灯油をよくしぼる。
6) エlementをエンジンオイルにひたし、押し潰すようにしぼる。

オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



取り扱いのポイント

- ・ エlementをねじらないでください。破れてエンジン不調の原因となります。

- 7) エlementを取り付ける。

取り扱いのポイント

- ・ エlementは、めくれやすれのないように確実に取り付けてください。
- ・ エlementを取り付けていない状態では、エンジンを絶対に始動させないでください。エンジンの故障の原因となります。

- 8) エアクリーナーカバーに損傷がないこと、また確実に取り付けられていることを確認する。
9) エアクリーナーカバーを元の位置に戻し、ネジを締め付ける。

燃料タンクストレーナーの清掃

⚠ 警告

- ❗ 清掃は換気の良い場所で行う

⚠ 注意

- ❗ 燃料タンクストレーナー（以下ストレーナー）が破損している場合は新品と交換する

- 1) 清掃用に以下を用意する。

- ・ きれいな灯油
- ・ 灯油を入れる容器

⚠ 警告

- ⊘ 清掃に使用する灯油は引火しやすいため、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
火災の原因となります。

- 2) エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する。
3) 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す。

点検・整備

4) きれいな灯油でストレーナーを洗浄する。



ストレーナー

取り扱いのポイント

・ストレーナーが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れがたまっていることがあります。

5) ストレーナーを拭いて燃料タンクの奥までしっかり挿入する。

6) 燃料タンクキャップを取り付ける。

警告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付ける

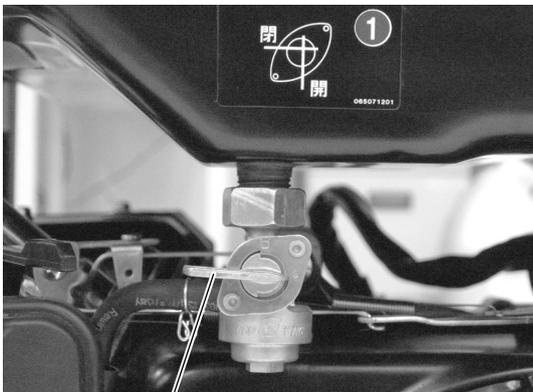
燃料コックストレーナーの点検・清掃

危険

作業中は、タバコの火や他の火種になるような物を近づけない
また、身体に帯電した静電気を除去してから給油を行う

放電しないと、静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火するおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると静電気を放電することができます。

1) 燃料コックを「閉」にする。



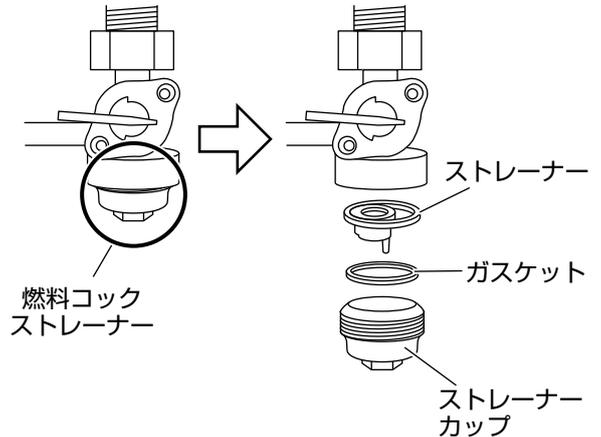
燃料コック

2) ボルトをレンチで取り外す。

3) ストレーナーカップを取り外し、点検する。

レンチは「10mm」を使用してください。

ストレーナーカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。



4) ガasket、ストレーナーを取り外す。

5) ストレーナーカップ、ストレーナーをきれいな灯油で洗浄する。

6) ガasketを点検する。

ガasketが破損している場合は新品と交換してください。

7) ストレーナーカップ、ストレーナーおよびガasketを取り付ける。

危険

ストレーナーカップ、ストレーナーおよびガasketを必ず取り付ける
取り付けが悪いと燃料がもれ、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

8) 取付後、燃料コックを「開」にしてから燃料漏れがないことを確認する。

一時保管・長期保管

使用后または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これらを行わないと、故障の原因となります。

一時保管

1) 以下を用意する。

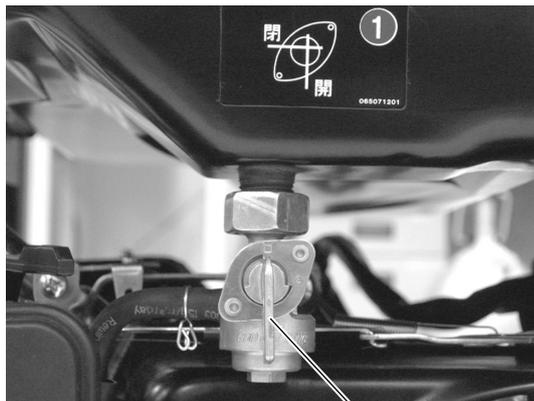
- ・手動式ガソリン用ポンプ
- ・消防法に適合した携行缶

危険



電動式ポンプは使用しない
引火の原因となります。

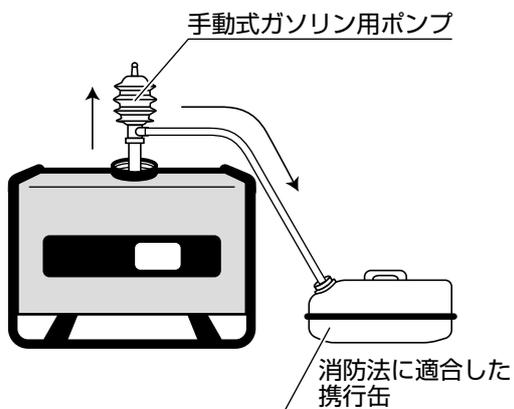
- 2) エンジンスイッチを「OFF」にする。
- 3) 燃料コックを「開」の位置にする。



燃料コック

4) 燃料を燃料タンクから抜いて、携行缶に入れ替える。

燃料の抜き方：燃料タンクキャップと燃料タンクストレーナーを取り外し、ポンプを使用して燃料を抜きます。



5) 燃料タンクキャップおよび燃料タンクストレーナーを取り付ける。

注意



燃料タンクキャップは確実に締め付ける



こぼれた燃料は直ちに布切れなどで完全に拭き取る

- 6) 発電機に何も接続しない状態でエンジンを始動する（無負荷運転）。
- 7) エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ。

取り扱いのポイント

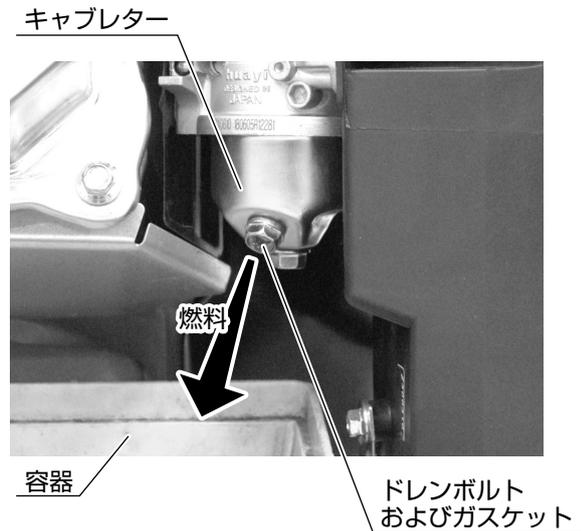
- ・状況によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

8) 排出するガソリンを受ける容器を用意する。

一時保管・長期保管

- 9) キャブレターのドレンボルトの下に容器を置き、ドレンボルトをレンチでゆるめて燃料を抜く。

レンチは「10mm」を使用してください。



⚠危険



ガスケットを必ず取り付ける

取り付けが悪いと燃料がもれ、火災や爆発の原因になるおそれがあります。



⚠注意



こぼれた燃料は直ちに布切れなどで完全に拭き取る

取り扱いのポイント

- ・キャブレター内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンが始動しなくなる場合があります。

- 10) ドレンボルトをレンチでしっかり締め付ける。
11) エンジンスイッチ、燃料コックを全て OFF (閉) にする。
12) 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する。

⚠注意



本機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、排気口部が冷え切ってから行う
排気口部が熱いまま行くと火災の原因となります。

取り扱いのポイント

- ・携行缶に入れた燃料、およびエンジンオイルは冷暗所に保管してください。寒暖差の大きい場所では結露により水やサビが発生します。それらが燃料などに混入するとエンジン不調の原因となります。

長期保管

- 1) 前項の「一時保管」11) までを行う。
2) 本機が冷めるまで待つ。
3) 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL 給油する。



- 4) リコイルを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付ける。

⚠注意



リコイルは勢いよく引かない

プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく吹き出すおそれがあります。

- 5) リコイルを引き、重くなった状態 (圧縮状態) にする。
6) 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する。
7) 本機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する。

主要諸元

機種名	GV-2000	GV-2300	
製品名	スタンダード発電機		
用途	屋外での電源		
形式	2 極界磁回転型		
発電部	電圧調整方式	自動電圧制御方式 (AVR)	
力率	1		
定格周波数 (Hz)	50Hz	60Hz	
交流	定格出力 (kVA)	2.0	2.3
	定格電圧 (V)	100	
	定格電流 (A)	20	23
直流	定格電圧 (V)	12	
	定格電流 (A)	8.3	
エンジン	エンジン種類	空冷 4 ストロークガソリンエンジン	
	総排気量 (cm ³)	212	
	使用燃料	レギュラーガソリン	
	スパークプラグ	F6RTC (TORCH)	
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイル SE 級以上 SAE 10W-30	
	エンジンオイル規定量 (L)	0.5	
燃料タンク容量 (赤レベル) (L)	12.6		
定格連続運転時間 (赤レベル) (h)	8.4	7.0	
1/4 負荷連続運転時間 (赤レベル) (h)	17.7	13.2	
始動方式	リコイル式		
使用環境温度	- 5℃ ~ 40℃		
乾燥重量 (kg)	42		
全長 × 全幅 × 全高 (mm)	615 × 445 × 457		

発電機を下記環境に使用されると、出力が低下する場合があります。

この場合は発電機の負荷を下げてください。

- ・周囲温度：40℃以上
- ・気圧：100kPa 以下
- ・相対湿度：30% 以上

交流・直流電源の使用できる範囲

交流電源の使用できる範囲

コンセント	GV-2000 [50Hz]	GV-2300 [60Hz]
アース付 3 本足コンセント 15A × 2 個	AC 100V/ 合計 20A まで	AC 100V/ 合計 23A まで
引掛形アース付 3 本足コンセント (NEMA L6-30) 30A × 1 個		

使用例		GV-2000 [50Hz]	GV-2300 [60Hz]
電気ポット オーブントースター テレビ 照明 (白熱灯、ハロゲン灯など)	交流のみ	2000W まで	2300W まで
	交流・直流 併用	1900W まで	2200W まで
水中ポンプ コンプレッサー ドリル ジグソー 掃除機 照明 (水銀灯、メタルハライドランプなど)		500W まで	600W まで
		モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。電気機器会社にお問い合わせください。	

- ・ ご使用の前に、使用する電気機器の消費電力を確認してください。
- ・ 安定器の付いた放電タイプのランプ (水銀灯、メタルハライドランプなど) を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。本機や使用する電気機器に不具合が発生する原因となります。
- ・ 使用する電気機器によっては、本機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。電気機器会社にお問い合わせください。

直流電源の使用できる範囲

直流端子 (プラス・マイナス)	DC 12V/8.3A まで
-----------------	----------------

- ・ 12V 開放 (オープン) 型鉛バッテリー充電専用です。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

よくある質問

Q：SA級など、SD級以前のエンジンオイルは使用できますか？

A：できません。SE級以上の物をご使用ください。エンジンが焼き付き、故障の原因となります。

指定外のオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

Q：2サイクル用エンジンオイルは使用できますか？

A：できません。エンジン故障の原因となります。

Q：屋外で使用中に雨で濡らした、また、水たまりにはまってしまい内部に水が入りました。このまま使用して良いですか？

A：発電機および電気機器の使用を中止し、点検修理にお出してください。内部回路のショートや故障の原因となる場合があります。



■ 燃料は自然劣化します

- ・ 製品に入れたまま長時間経つと、エンジンに悪影響をおよぼすおそれがあります。19ページ「定期点検を行いましょう」を参考に、燃料を抜くなどメンテナンスをすることで製品を末永くご使用頂けます。
- ・ 携行缶に入れた燃料、およびエンジンオイルは冷暗所に保管してください。寒暖差の大きい場所では結露により水やサビが発生します。それらが燃料などに混入するとエンジン不調の原因となります。

■ 「問題のある燃料、エンジンオイル」について

以下のような燃料、エンジンオイルを使用するとエンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

混合燃料／長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの／アルコール入りのもの／ペットボトルなど、消防法に適合していない携行缶で保管したもの

■ 点火プラグについて

通常の使用ではキツネ色に焼けますが、問題があると以下ようになります。

- ・ 黒くくすぶっていたり、白く焼けている
- ・ エンジンオイルの入れ過ぎなどで焼き付きがおこっている「くすぶり」
- ・ ガソリンでぬれたように湿っている
- ・ エンジンが運転を開始した後もチョークレバーを長く「始動」状態にし続けた(=チョークを閉じ続けた)場合など、ガソリンが多く供給されすぎた「かぶり」

KOSHIN

保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種 (どちらかに○)	インバーター発電機 GV-2000 / 2300	※お買い上げ日(納品日)		年 月 日
保証期間	お買い上げ日より1年間(ただし、営業・業務用または不特定多数者が使用する場合は、お買い上げ日(納品日)より6か月)			
お客様	※お名前	〒	※購入店	住所
	※ご住所			店名
	電話 ()			電話 ()

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
 - 取扱説明書に記載の用途以外の目的に使用による故障または損傷。
 - 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
 - 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
 - 同梱付属品、消耗品の交換。
 - 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
 - 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
 - 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書) 貼付位置

お問い合わせ

【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱装箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■ 製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00

会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■ 製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

キョウトのコーシン

Q&A Eメール お客様サポートページ 電話 **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00

会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp